

災害から2年が経ち、本市では、令和2年7月豪雨災害検証委員会の提言を踏まえた防災・減災対策を行ってきたところです。すでに対応が完了し、活用を始めているものもありますが、完了までに時間を要する対策もあります。

一方で、地域や学校等では、「自分たちでできることから始めよう」と、防災・減災に対する訓練や研修を行っているところも多くあります。今回は、そのような地域や学校等で行われている取り組みについて紹介します。

令和2年7月豪雨の

黙とうを行います

令和2年7月6日の豪雨でお亡くなりになられた2名の方のご冥福を祈って、黙とうを捧げます。時刻になったら、市内の各施設に設置されている防災行政無線からサイレンを1分程度鳴らします。

▼とき 7月6日(水) 16時30分

地域で備える

三池校区

三池校区では、令和2年7月豪雨災害以前より、地域でさまざまな防災活動に取り組んでいます。

令和3年3月には、地域の危険性を事前に把握し、安全な避難の参考にしてもらうために、三池校区まちづくり協議会で「三池・危険箇所マップ」を作成し、校区内の全世帯に配布しました。その後、令和3年度は「避難情報と避難」をテーマに、防災危機管理室の職員から避難先や避難のタイミングについて学んだほか、避難所の備蓄資材を確認しながら、誰もが過ごしやすい避難所運営について検討を行いました。



▲「三池・危険箇所マップ」

駛馬校区

駛馬校区では、平成30年にまちづくり協議会が設立されて以降、安心安全部会を中心に毎年テーマを変えて防災訓練を行っています。

コロナ前は駛馬小学校体育館へ集まって避難誘導訓練や避難所設営訓練を行っており、コロナ禍になってからは、LINE（ライン）を活用した情報伝達訓練を行っています。このLINE（ライン）は、災害時のみでなく普段から地域の連絡網として活用しているため、災害などの緊急時であっても迅速に情報伝達を行うことができます。

このように、以前からいろいろな取り組みを行ってきたので、地域のつながりも強く、令和2年7月豪雨の際は、地域で出た災害ごみの搬出を駛馬小学校のPTAの人たちが積極的に手伝ってくれたこともありました。

このように、以前からいろいろな取り組みを行ってきたので、地域のつながりも強く、令和2年7月豪雨の際は、地域で出た災害ごみの搬出を駛馬小学校のPTAの人たちが積極的に手伝ってくれたこともありました。



駛馬校区まちづくり協議会
安心安全部会
部会長 北川正一さん

「継続は力なり」と思い、毎年の訓練のテーマを考えています。訓練内容を考えるのは大変ですが、一生懸命やったらその分地域の皆さんも協力してくれ、地域の絆が深まっています。

学校で備える

宅峰中学校

宅峰中学校では、災害時でも自分たちができることを考え、自主的に行動する子どもたちを育てるために、防災学習を行っています。防災学習は、災害情報の収集方法や非常用持出袋の中身、簡易担架の作成方法など、5つのテーマに分けて行いました。

5回目の学習では災害発生直後を想定し、生徒が避難所運営役と避難者役とに分かれ、生徒が主体的に避難所の開設や避難者の受け入れまで行うことで、避難所の運営について学びました。



▲避難者役に体調を確認しながら、避難場所へ誘導しています

大牟田中央小学校

令和4年2月、5年生を対象にリモートによる防災学習が行われました。

子どもたちは、モニター越しに、大牟田市で過去に発生した大雨や台風、地震の被害等の話を真剣に聞き、大雨が降る仕組みや雨量の強さについて学習しました。また、緊急地震速報にあわせた身を守る行動の訓練を実施し、身近なもので災害時に役立つグッズを作るなど、災害への備えの大切さを学びました。



▲緊急地震速報にあわせて机の下に隠れる訓練を行いました



▲防水・防寒等として利用できるポンチョをビニール袋で作りました

要配慮者利用施設・市役所で備える

済生会大牟田病院（要配慮者利用施設）

令和2年7月豪雨のときの病院の状況や対応を今後の教訓とするために、当時対応した職員が実体験を交えて院内の職員へ講義するなど、今後の災害に備えた研修等を行いました。



◀病院職員による講義

大牟田市役所（災害対策本部）

警察や自衛隊、消防を含む100人以上が参加し、関係機関との連携、市内の被害状況の把握や対応の検討、避難所における物資の手配などさまざまな課題に対応するための訓練を行いました。



◀市内の被害情報の報告を受け、対応を協議する関市長と両副市長

日頃から災害を想定した「備え」で命を守る

令和2年7月豪雨から二年が経ちます。改めて、災害でお亡くなりになられた2名の方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された市民や事業者の皆様、今なお避難生活を余儀なくされている皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

本市は、令和2年7月豪雨災害に続き、令和3年8月においても大雨が降り、24時間の降雨量が8月の観測史上最大となるなど、2年連続で記録的な大雨に見舞われています。

そのため、市といたしまして、三川ポンプ場の増強や排水路の拡張、河川・水路・側溝の浚渫などの対策に加え、災害対策本部設置運営訓練の実施、地域防災活動に対する支援強化、情報伝達手段の拡充等、防災・減災対策に取り組んできました。しかしながら、今後も記録的な大雨等を想定した災害への備えが常に必要です。普段から訓練の実施や避難の準備をすることで、命を守る備えをお願いします。

また、地域・学校・事業所の皆様におかれましては、避難時における近所の声かけや地域防災活動など、引き続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

大牟田市長 関 好孝